

優秀賞 東日本大震災復興応援企画JASRACエッセイコンテスト

「あの日からも、二人を繋ぐ曲」

佐藤そのみ

G, D, G, Am7, G, A, Dsus4, D. 柔らかい音を出すギター—の弦。BUMP OF CHICKENの「花の名」のイントロである。もう聴き慣れた曲だ

でも、その音の発信源は、ウォークマンのイヤフォンでもなく、ラジカセでもなく、居間の隣にある妹のみずほの部屋だった。みずほ本人が、父のアコギで「花の名」を弾いていたのである。耳を疑った。うまい。まだギターを始めて半年も経ってないのに、確実にうまくなっている。なんだよ、私のマネで始めたクセに。なんだか悔しくなって、「すげえじゃん」なんて褒めることさえしなかった。「タブ譜の読み方教えてー」と言われても、「みずほにはまだ早い」と冷たくあしらった。何かと私のマネをしてはいつも上を行くみずほが、煩わしくて、それと同時に羨ましくもあった。

これが、3月10日のことである。みずほのギターを聴くのは、この日が最後になった。

母と大川小学校に向かう途中で「みずほちゃん、上がったみたいだよ」と知らされたのは、3月13日。それから毎日、寒さの中、家族で安置所に通ってみずほの帰りを待った。安置所にはいるのに、なかなか帰してもらえない。早く帰って来てよ。早くみずほ帰してよ。なんで帰って来ないの？ …ああ、そっか。ごめん、ちゃんとタブ譜教えてやんなかったからだ。いつも冷たくしてたからだ。

「今日もダメか」と帰宅した後の夜。家族みんなが寝静まった後、電池残量が無事だったウォークマンで、ひとりきりで音楽を聴いた。全曲シャッフルで偶然行きついた、BUMP OF CHICKENの「花の名」。

思えばみずほは、ギターだけじゃなくて、聴く音楽も、私のマネばかりだった。私がバンドの音楽にハマって、「今はJ-POPじゃなくてJ-ROCKの時代だよ」なんて言うのと、それを鵜呑みにして、私が聴くバンドばかり好きになろうと必死だったみずほ。

震災から5日後、家に帰って来たみずほの側で、私はみずほの使っていたエレキギターを鳴らした。BUMP、チャットモンチー、アジカン。それから、みずほとふざけて作ったオリジナル曲。長い木の箱の中に寝ているみずほの口元が、ちょっとだけ緩んでいるように見えた。「花の名」も聴かせてあげた。

一緒に見た空を忘れても 一緒にいた事は忘れない

震災から一週間後、みずほの卒業式だったはずの日は、火葬になってしまった。

その日の深夜、みずほの部屋のアコギが、勝手に音を出した。「G」の音だった。

2012/03/30

中学校弁論大会石巻地区審査員特別賞



「今だから守りたい」

佐藤そのみさん  
大川中3年

「今」のうちに家族や友達に優しくしてほしい。後で失う時に絶えず後悔する。「この春からは今年1月30日から、私の頭の中に唐突に浮かんでききました。なんの意識もしていないのに、この言葉は毎晩の夢で脳内に連呼を繰り返してききました。

「今」のうちに家族や友達に優しくしてほしい。後で失う時に絶えず後悔する。「この春からは今年1月30日から、私の頭の中に唐突に浮かんでききました。なんの意識もしていないのに、この言葉は毎晩の夢で脳内に連呼を繰り返してききました。

「今」のうちに家族や友達に優しくしてほしい。後で失う時に絶えず後悔する。「この春からは今年1月30日から、私の頭の中に唐突に浮かんでききました。なんの意識もしていないのに、この言葉は毎晩の夢で脳内に連呼を繰り返してききました。

「今」のうちに家族や友達に優しくしてほしい。後で失う時に絶えず後悔する。「この春からは今年1月30日から、私の頭の中に唐突に浮かんでききました。なんの意識もしていないのに、この言葉は毎晩の夢で脳内に連呼を繰り返してききました。

「今」のうちに家族や友達に優しくしてほしい。後で失う時に絶えず後悔する。「この春からは今年1月30日から、私の頭の中に唐突に浮かんでききました。なんの意識もしていないのに、この言葉は毎晩の夢で脳内に連呼を繰り返してききました。